

第9期 中間事業報告書

2005年1月1日～2005年6月30日

Leading Company of

Open Source

Message from the President

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第9期中間事業報告書を株主の皆様にお届けし、業績および今後の見通し等につきまして以下にご報告申し上げます。

- 2005年12月期中間期は、売上高は増収、営業利益・経常利益は増益となりました
- 2005年12月期中間期予想に対して、売上高は若干下回ったものの、利益は予想を上回りました
- 通期では、売上高46億20百万円、経常利益3億13百万円、当期利益3億36百万円の増収増益を予想しています
- 2005年9月20日付で株式分割(1株につき2株の割合)を実施します
(基準日:2005年7月31日)
- 今期末に創業以来初めての配当(1株当たり500円)を実施する予定です
- 目標とする経営指標は、「売上高経常利益率の10%達成」「売上高成長率20%の確保」です

今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

喜多伸夫

2005年9月

目次

株主の皆様へ	1	アンケート結果のご報告 ..	7
財務ハイライト	2	財務諸表	9
部門別事業の概況	3	株式の状況	13
用語集	6	会社概要	14

Financial Highlights

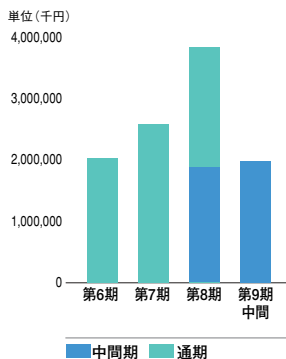
財務ハイライト

(単位：千円)

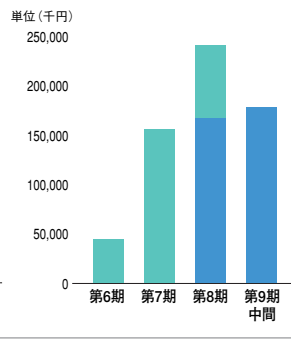
	第6期 2002年12月	第7期 2003年12月	第8期中間 2004年6月	第8期 2004年12月	第9期中間 2005年6月
売上高	2,029,244	2,594,367	1,917,710	3,848,007	1,994,399
経常利益	44,826	156,588	168,208	243,021	178,610
中間(当期)純利益	11,650	227,171	223,632	330,594	186,837
総資産	966,966	1,225,572	1,426,274	1,943,862	2,395,510
株主資本	507,013	734,185	957,817	1,585,580	1,772,417
1株当たり中間(当期)純利益(円)	325.08	6,338.50	6,239.74	9,019.29	4,937.56
1株当たり株主資本(円)	14,146.58	20,485.08	26,724.82	41,902.22	46,839.79
従業員(正社員)数(名)	79	89	99	103	119

当社は、2002年1月1日付で当社を存続会社として、ノーザンライツコンピュータ株式会社と合併いたしました。第7期以前の中間期については、中間財務諸表を作成していないため、記載を省略しています。

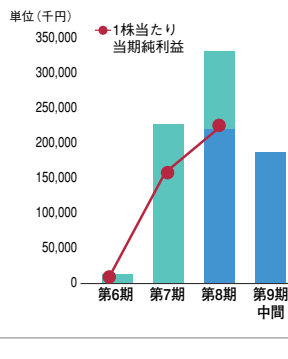
売上高



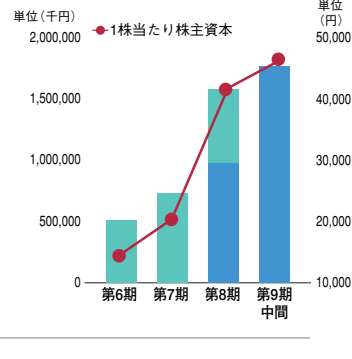
経常利益



中間(当期)純利益・ 1株当たり当期純利益



株主資本・ 1株当たり株主資本



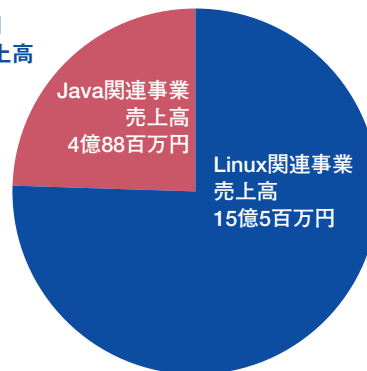
Review of Operations

部門別事業の概況

テナートニは、企業の柱ともいえる情報システムの開発・サポート・構築支援・コンサルティング等、あらゆる面でお客様のシステムを支援する事業を行っています。具体的には、マイクロソフトのWindowsに並ぶ基本ソフトウェアである、LinuxおよびLinuxに対応したソフトウェア・ハードウェア(コンピュータ)の販売・サポートを行うLinux関連事業、そしてプログラミング言語(システムをつくるときに使う開発言語)であるJavaを用いて、主にインターネットを利用した情報システムを開発するほか、Javaでのシステム

開発を容易にするシステム開発者向けのソフトウェア等の販売を行うJava関連事業から成り立っています。

第9期中間
部門別売上高



Linux業績

当中間期のLinux関連事業は、売上高15億5百万円と前年同期比3.3%増、売上総利益は利益率の改善により4億73百万円と前年同期比18.9%増となりました。

サーバビジネスの価格競争が一段と激化し、売上高1億40百万円と前年同期比39.0%減となりました。

一方で、利益率の高いサポートを中心としたSIビジネスを強化した結果、SIビジネスの売上高は1億88百万円と前年同期比47.1%増となりました。

ソフトウェアビジネスは堅調に推移し、売上高11億77百万円と前年同期比7.1%増となりました。

Java業績

当中間期のJava関連事業は、売上高4億88百万円と前年同期比6.1%増となり、課題であった利益率の改善を優先し、体制強化をはかった結果、売上総利益は1億56百万円と前年同期比53.7%増となり、大幅に改善することができました。

SIビジネスの売上高は4億14百万円と前年同期比2.0%増、またソフトウェアビジネスの売上高は73百万円と前年同期比37.2%の大幅増となりました。

サーバビジネス 1億40百万円

Linux関連事業

「ソフトウェアビジネス」「サーバビジネス」「SI
ビジネス」の3事業で構成されています。

ソフトウェアビジネス
11億77百万円

SI
ビジネス
1億88百万円

「ソフトウェアビジネス」

今やWindows、Unixに並ぶ企業情報システムの基本ソフトウェアとなったLinuxと、Linuxに対応するソフトウェアを販売しています。

米国のRed Hat社が開発・販売し、世界でもっとも利用されているLinux製品である「Red Hat Enterprise Linux」に当社独自のサポートをつけて1つの製品とし、日本国内で販売しています。また、Linuxに対応するソフトウェアとしては、システムの安定稼働、停止・障害回避を支えるソフトウェアである「SteelEye LifeKeeper」のほか、セキュリティ関連のソフトウェア等の販売も行っています。



Red Hat Enterprise Linux

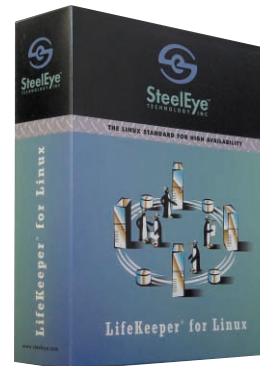
「サーバビジネス」

Linuxに特化したハードウェア製品の開発と販売を行っています。主な製品としては、当社独自の「ノーザンライツ」ブランドのサーバ(コンピュータ)があります。

「SIビジネス」

SIとはシステムインテグレーション(System Integration)の略で、お客様の個別ニーズに合わせた情報システムの企画、開発、運用などの業務を行うビジネスを言います。

LinuxおよびLinuxに対応するソフトウェアを導入する際のシステム構築・運用のコンサルティング、導入後のサポートを行っています。



SteelEye LifeKeeper

Review of Operations

Java関連事業

「SIビジネス」「ソフトウェアビジネス」の2

事業で構成されています。

SIビジネス
4億14百万円

ソフトウェア
ビジネス
73百万円

「SIビジネス」

インターネットを利用した企業の情報システム(Webシステム)を、開発言語であるJavaを利用して構築しています。また、企業のシステム関連部署に属するシステム開発者をはじめとする、技術者向けのJavaの教育・セミナーを行っています。当社が手がけている情報システム開発は、特定の業種や業務に限定されておらず、さまざまな業種のお客様の情報システムと業務の情報システムに及んでいます。

「ソフトウェアビジネス」

当社が独自に開発したソフトウェアを販売しています。主に、Javaでの情報システムの開発を容易にするシステム開発者向けソフトウェアや、情報システムから簡単に帳票(PDF=電子文書)が作成できるソフトウェア等を開発・販売しています。

Linux関連<事例>

下関市総合政策部 情報政策課 様

山口県下関市では、市民活動や地域振興のための情報化を市が率先して行っています。

全体的な情報基盤を考える役割を担う情報政策課では、2005年2月の1市4町による合併を前に、地域拡大に合わせたシステムの拡充と見直しを行いました。住民による情報の閲覧をはじめ電子入札、公共施設利用サービスといったインターネットでの情報提供サービスをより安定性の高いものにするため、富士通様の構築によってテナートニの「SteelEye LifeKeeper」を導入しています。導入後の稼働は非常に安定しており、地域と行政のサービス提供を日々支えています。



Java関連<事例>

麒麟ビバレッジ株式会社 様



「麒麟生茶」や「麒麟午後の紅茶」といったヒット商品を販売する、大手清涼飲料メーカーの麒麟ビバレッジ様では、2004年5月より「新販売情報システム」を稼動し、営業活動に活用しています。

例えば「エリアごとに、どのような商品がどれだけ売れたか」といった実際の数値を把握し、その数値に基づいた営業活動を行うことは、営業戦略上、大変重要となっています。

テナート二では、そのようなデータをインターネットを利用したシステムから簡単に参照することができる「新販売情報システム」の開発のお手伝いをすることで、麒麟ビバレッジ様の全国に広がる数百名の営業担当者の方々の活動を支援しています。

用語集

Linux

Linuxは、1991年にヘルシンキ大学の大学院生であったLinus Torvalds(リーナス・トーバルズ)氏が開発したOS(オペレーティングシステム)です。

その大きな特徴は、設計情報(ソースコード)がインターネット上に公開されていて誰もが自由に利用・改変・配布できる(オープンソース)ソフトウェアであることです。そのため、世界中の技術者が開発に参加し、改良されてきました。現在もコミュニティ(技術者グループ)によって管理され、日々進化しています。もう1つの特徴としては、他の代表的なOSであるWindows等に比べ、ネットワーク機能やセキュリティ機能に優れ、非常に安定して動くことが挙げられます。

Java

Javaは、米国のSun Microsystems社が開発したプログラミング言語(システムをつくる時に使う開発言語)です。Javaで開発されたソフトウェアは、特定のOSに依存することなく、多様な環境(OS)で稼動します。

また、ネットワーク環境で利用されることを強く意識して作られているため、今日では主にインターネットを利用したシステム開発に採用されています。他の代表的なプログラミング言語には、C言語、Visual Basic、Perl等があります。

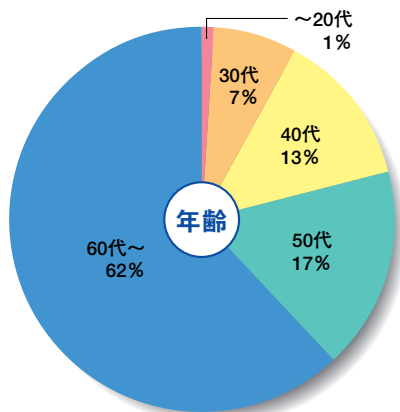
Enquete

アンケート結果のご報告

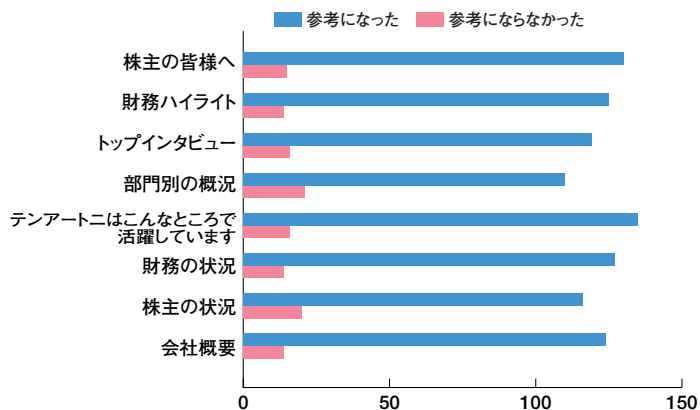
当社「第8期事業報告書」で実施いたしましたアンケートに多くの皆様のご協力を賜わり、誠にありがとうございました。ここに、アンケート結果の一部をご紹介します。

皆様からの貴重なご意見を今後の当社活動に活かすべく、努力してまいります。

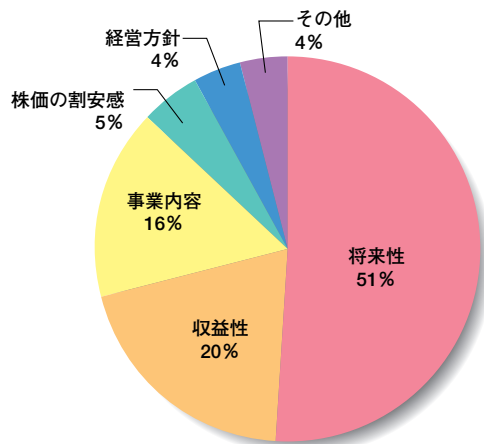
● 属性について



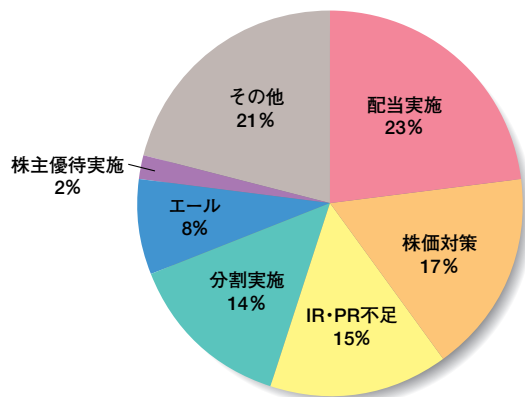
● ご参考になった内容について



● 当社の株式のご購入理由について



● 当社に対する主なご意見、ご要望



アンケートの中で多くの株主の皆様から株主還元についてのご意見・ご要望をいただきましたが、今期は以下の具体的な株主還元策を実施する予定です。

●株式分割の実施

投資家層の拡大および当社株式の流動性の向上を図ることを目的に1：2の株式分割を実施します。

(基準日：2005年7月31日、新株交付日：2005年9月20日)

株式分割前の当社発行済株式総数 37,840株



株式分割後の当社発行済株式総数 75,680株

●今年度末の配当実施予定

株主の皆様への早期の株主還元を実現するため、創業以来初めての配当を実施する予定です。

従来の方針を変更し、経営成績、財政状態および今後の事業展開を勘案の上、必要な内部留保を確保しつつ業績に応じた配当を実施していく方針としました。

配当は、**1株当たり500円(株式分割後)**を予定しています。

ポイント1 現預金の増加は、上場による調達資金(520百万円)および営業活動による収入増加によるものです。

ポイント2 売掛金の増加は、主に売上高の増加によるものです。

ポイント3 たな卸資産の減少は、主にシステム開発の仕掛品の減少によるものです。

中間貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	第8期中間 2004年6月30日	第9期中間 2005年6月30日
流動資産		
現金及び預金	149,331	1,046,232
受取手形	8,590	—
売掛金	558,616	667,970
たな卸資産	364,333	164,232
繰延税金資産	112,454	155,449
前渡金	—	136,161
その他	55,793	7,890
貸倒引当金	△ 495	—
流動資産合計	1,248,624	2,177,936
固定資産		
有形固定資産	34,462	41,938
無形固定資産	45,717	47,669
投資その他の資産	97,469	127,966
固定資産合計	177,649	217,574
資産合計	1,426,274	2,395,510

(単位：千円)

負債の部

第8期中間
2004年6月30日

第9期中間
2005年6月30日

流動負債

買掛金 250,076 217,332

前受金 82,311 249,676

その他 93,550 100,559

流動負債合計 425,937 567,568

固定負債

退職給付引当金 19,614 28,320

役員退職慰労引当金 2,600 6,899

その他 20,305 20,305

固定負債合計 42,519 55,524

負債合計 468,456 623,093

資本の部

資本金 750,015 945,515

資本剰余金 — 325,300

利益剰余金

中間未処分利益 207,802 501,602

資本合計 957,817 1,772,417

負債資本合計 1,426,274 2,395,510

ポイント4 前受金の増加は、Linux関連のサポート(保守料)の増加によるものです。

ポイント5 資本の増加は、上場による増資と利益増によるものです。株主資本比率は74%となりました。

Financial Data

中間損益計算書

(単位：千円)

第8期中間
自 2004年1月1日
至 2004年6月30日

第9期中間
自 2005年1月1日
至 2005年6月30日

ポイント6 売上高は、Linux関連事業およびJava関連事業ともに増加し、前期比4.0%増となりました。

ポイント7 売上総利益は、Java関連事業の受託開発の体制強化による利益率改善と、Linux関連事業での利益率の高い商品の販売が寄与し、前期比26.0%増となりました。

ポイント8 販売費および一般管理費の増加は、主に人員増加によるものです。

ポイント9 中間純利益は、特別利益および法人税等調整額の減少により、前期比16.5%減となりました。

売上高	1,917,710	1,994,399
Linux売上高	1,457,226	1,505,902
Java売上高	460,484	488,497
売上原価	1,418,045	1,364,958
売上総利益	499,665	629,441
販売費及び一般管理費	329,918	449,243
営業利益	169,746	180,197
営業外収益	675	867
営業外費用	2,213	2,455
経常利益	168,208	178,610
特別利益	27,068	—
特別損失	5,028	—
税引前中間純利益	190,248	178,610
法人税、住民税及び事業税	1,145	1,145
法人税等調整額	△ 34,529	△ 9,372
中間純利益	223,632	186,837
前期繰越利益又は前期繰越損失(△)	△ 15,829	314,765
中間未処分利益	207,802	501,602

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	第8期中間 自 2004年1月1日 至 2004年6月30日	第9期中間 自 2005年1月1日 至 2005年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 87,326	301,135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,048	△ 12,658
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物の増加額	△ 105,374	288,477
現金及び現金同等物の期首残高	254,706	757,755
現金及び現金同等物の中間期末残高	149,331	1,046,232

ポイント10 営業活動によるキャッシュ・フローの増加は、たな卸資産の減少、前受金の増加等の増加要因によるものです。

株式の状況 2005年6月30日現在

株式の状況

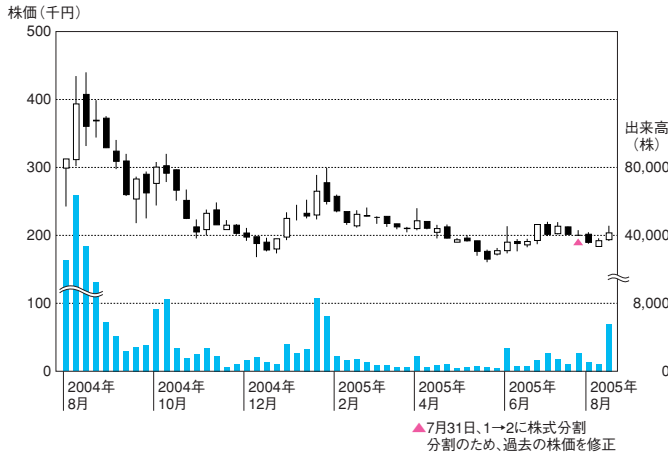
会社が発行する株式の総数	150,000株
発行済株式総数	37,840株
株主数	4,124名

大株主

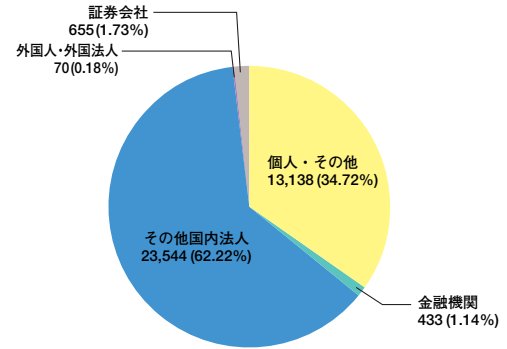
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社大塚商会	20,404	53.92%
稲畑産業株式会社	1,870	4.94%
喜多伸夫	724	1.91%
日本電気株式会社	400	1.06%
個人	322	0.85%
松井証券株式会社	286	0.76%
大阪証券金融株式会社	242	0.64%
個人	200	0.53%
日本ヒューレット・パッカード株式会社	200	0.53%
マネックスビーンズ証券株式会社	197	0.52%

※議決権比率は、小数点以下第3位を四捨五入

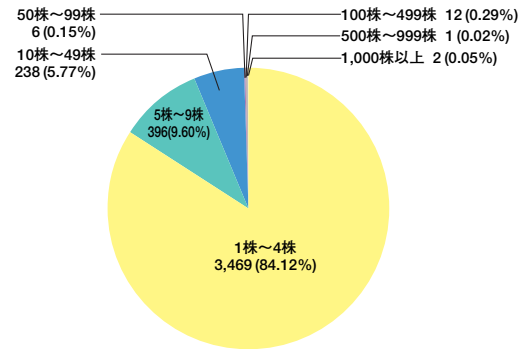
株価チャート



所有者別株式分布状況(株式数)



所有株数別株主分布状況(株主数)



会社概要

2005年6月30日現在

会 社 名 株式会社テンアートニ
(英語表記：10art-ni Corporation)

本 社 所 在 地 東京都千代田区外神田2-15-2
新神田ビル

設 立 1997年5月23日

資 本 金 945,515千円

従 業 員 数 119名(正社員)

決 算 年1回(12月)

役 員 代表取締役社長：喜多 伸夫
取 締 役：三小田 良次
取 締 役：阿部 尊幸
取 締 役：片倉 一幸
取 締 役：後藤 和彦
常 勤 監 査 役：堀 岩雄
監 査 役：古畑 克巳
監 査 役：河辺 春喜

交 通 地下鉄銀座線 末広町駅より 徒歩 5分
JR 御茶ノ水駅より 徒歩 7分
JR 秋葉原駅より 徒歩 12分

ホームページ

最新のテクノロジーで
真にユーザ主導といえるソリューションを
Cutting-Edge Java&Linux Enterprise Solutions

テナートニは1997年の創立以来、JavaとLinuxをコアテクノロジーとして、供給者の論理ではない、お客様が真に求めるソリューションの開発を推進してまいりました。今後も、最先端のテクノロジーを追及するとともに、お客様の経営課題を解決できる情報システムおよびノウハウを常に自問し、お客様の価値創造を支援してまいります。

プロダクト: 10art-ni Framework WebWorkBench
サービス: 教育・トレーニング
イベント/セミナー: イベント/セミナー 開催情報
事例: Java&Linux 構築事例集
会社案内: 会社案内

IR情報 採用情報

Information
株式会社大塚商会、日本アイ・ビー・エム株式会社、テナートニ共催「これがコストの真の使い方」実践セミナー(業務システム編) >>詳細
リアルタイム・バックアップソフト「LifeKeeper Disk to Disk Backup」情報を掲載 >>詳細
セキュアOSサービス「SELinux」サービスメニューを掲載 >>詳細
ビジュアルWebアプリケーション開発体験セミナー開催～「TenArtNi Ninja-VAJ」がもたらすこれからのJ2EEアプリケーション >>詳細

News/Press Release
●2005.08.30 >>詳細
テナートニ、米国Agitar Softwareと提携、Javaプログラム・テストツール「Agitator」の国内販売を開始～Java開発案件の抜本的解決策の提供～
●2005.08.04 >>詳細
米国Tresys Technology社とテナートニ、SELinuxにおける業務連携を発表～教育・研修サービスおよびSIコンサルティングサービスを提供～
●2005.07.26 >>詳細
テナートニ、SteelEye「LifeKeeper」による「サイボウズ

URL: <http://www.10art-ni.co.jp/>

株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日
名義書換代理人	その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。 東京都港区芝三丁目33番1号
同事務取扱場所	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本証券代行株式会社 本店および全国各支店 日本経済新聞 なお、当社は決算公告を当社ホームページ上に掲載しています。 http://www.10art-ni.co.jp/ir/kessankoukoku.html
上場取引所	東証マザーズ
コード番号	3744